

## 世界サルコイドーシス肉芽腫性疾患学会／間質性肺疾患学会を主催して

日本医科大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野 吾妻安良太

2019年10月9～11日、世界サルコイドーシス肉芽腫性疾患学会／間質性肺疾患学会（WASOG/ILD conference）を主催致しました（Figure 1：会場パシフィコ横浜）。本学会は我が国のサルコイドーシス肉芽腫性疾患学会（JSSOG）が永年サポートし、長い歴史をもつ国際学会です。

英国のDr. D. Geraint Jamesが中心となりサルコイドーシスに関する研究会議が開催されたのは、1958年、ロンドンで8ヵ国、22名の研究者が参加した記録に遡ります。その後参加者は増加し、D. G. Jamesとイタリアのサルコイドーシス研究者が中心となり、我が国から細田裕先生、泉孝英先生も参加されて、1987年9月7日に世界サルコイドーシス学会が開催されたのが、現在のWASOGの原型とされています。

当初、直属の上司でありました工藤翔二教授（現、結核予防会理事長）に連れられて参加したWASOGでありましたが、その後、泉孝英・大島駿作先生、安藤正幸先生、吉澤靖之先生がWASOG会議を日本で開催してきました。多臓器疾患であるサルコイドーシスですが、生命予後規定因子である呼吸器疾患は常に関心の中心で、近年では間質性肺疾患（ILD）をテーマに加えて学会を行うことが常となりました。そんな中、私も2017年からWASOGの理事長に推挙されて学会の発展を模索し、今回再度、日本でのWASOG/ILD Conference開催となりました。

学会前日（10月9日）には肺線維化病態の教育プログラムを企画し、「IPFを超えた様々な線維化病態の抗線維化治療」についてGanesh Raghu（ワシントン大学）先生に、「疾患の進行挙動の臨床的評価」をAthol Wells（ブロンプトン病院）先生に、また肺線維症の「基礎病態研究とバイオマーカー」についてGisli Jenkins（ノッティングハム大学）先生にlectureをいただき、若手研究者とのパネル討論を行いました。

Keynote Lectureには制御性T細胞の発見者である坂口志文先生（大阪大学）にご依頼し、「免疫制御機構におけるT細胞の役割」を伺いました。免疫機構の根幹に関わる機能として、サルコイドーシス研究への発展も期待された内容でした。

招請講演は「肺線維症診断ガイドラインとFleischner文書比較」をGanesh Raghu先生が解説されました。またサルコイドーシスの招請講演として「サルコイドーシス治療の開始時期と終了時期」につき、Robert P. Baughman（シンシナティ大学）先生に解説をいただき、国際比較を討論



Figure 1. WASOG 2019

しました。

また、「膠原病性肺疾患やIPAF、稀少肺疾患」をシンポジウム1で取り上げ、シンポジウム2では「IPFと肺癌」について基礎研究から臨床的課題について、欧米と我が国の比較討論を行いました。シンポジウム3では「肺サルコイドーシス」について最近のトピックスを扱い、シンポジウム4では「IIPs, IPFの診断ガイドライン」を取り上げ画像や病理診断の未来ならびに基礎的病因論について活発な議論が交わされました。

サルコイドーシス病因論の論争についてはシンポジウム5で取り上げ、「病因論としてのacne菌」や宿主側の分子病態としての要因とバイオマーカーについて話し合いました。近年注目の「心サルコイドーシス」はシンポジウム6でカナダからDavid Birnie先生を招いて討論しました。シンポジウム7では「ILD診断」の極意について、画像診断の未来について、また基礎病態研究から期待されるpost genome研究の最前線を討論しました。最後にシンポジウム8では「特発性間質性肺炎（IIPs）／特発性肺線維症（IPF）の治療管理」について討論を展開しました。

スポンサー講演はランチタイムセミナーとしてLS1：「日本のIPF診断と治療の現状」、LS2「EGPAの診断と治療」、LS3「サルコイドーシスぶどう膜炎の診断と治療、炎症性腸疾患の治療戦略」、LS4「癌の無作為化臨床試験の役割」の計4本企画し、モーニングセミナーはMS「ピルフェニドン治療の現状比較：トルコと日本の比較」1本、コー



Figure 2. 会長挨拶



Figure 3. 鏡開き

Table1. WASOG 2019参加者

Participants by Country (Total 26 countries)

Australia	5	Morocco	1
Belgium	1	Netherlands	24
Canada	1	New Zealand	1
China	1	Poland	2
France	2	Serbia	8
Germany	10	Spain	3
Greece	3	Sweden	3
Hong Kong	2	Taiwan	2
Indonesia	4	Turkey	13
Iran	2	UK	4
Italy	4	Ukraine	3
Japan	149	USA	27
Korea	18	unknown	21
Malaysia	2	TOTAL	316

ヒーブレイクセミナーはCB「IPF治療管理について」1本を行いました。

Oral Sessionは

「O1, 5:サルコイドーシス病因／病態」

「O2, 3:肺サルコイドーシス」

「O4:心臓サルコイドーシス」

「O6:特発性肺線維症」に集約され、トピックスが話題となりました。Poster Sessionには多くの一般演題が登録され、P1-P12に分かれて、若手研究者のshort presentationに対してベテラン研究者、臨床家との交流を深めました。夜は横浜の夜景を背景に懇親を深めました (Figure 2, 3:学会写真, 懇親会写真)。

毎年開催される運びとなったWASOG/ILD Conference, 今回も300余名の参加者を招き、忌憚ない意見交換が交わされました (Table 1)。折しも台風19号の影響で移動に支障が生じ、ご迷惑をおかけいたしました。JSSOG会員の多大な協力のもと、3日間に及ぶ学会を成功裏に会を終えることができましたこと、この場を借りてご報告ならびに御礼申し上げます。